

## 〇21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

（全般モニター使用）議長から登壇の許可をいただきましたので、一般質問を開始いたします。

始めたかばってん、やっぱり情けなかですね。先ほど、私の辞任の云々ということが出ましたけれども、私が違うと言うとば、うんにゃ、そがんと言われる。考えられんですね。まして、いわんや、議会運営委員会という正式なところで皆さんを前にして、こういう理由でやめさせていただきます、さらにこれは共産党さんの云々とは全く関係ございませんので、これはネタに使わないでくださいと、そこまで言うのとつとけど、書いとんさって。いや、違うと、私も身もふたもなかですね。こういうことを話すこと自体も嫌ですて——話しよるばってんが、すみません。もう、気を取り直していきましょう。

私は体がふとかけんが相撲しよったろうと、よく言われるばってんが、ラグビーをやっていました。前は差し歯です。そして、剣道もやっていました。剣道も一応4段です。ラグビーは激しいスポーツですね。よく試合中に審判がいないところで、殴ったりなんかやるんですよ。でもね、笛が鳴ってノーサイドになったら握手します。よかパンチやったのうて、おいも痛かったばいて、あんたものうとか言うて、ノーサイドの笛が鳴ったら握手するんですよ。何でこうなるんですかね。本当に情けないです。あとは、例えばよくあるので、地域コミュニティ、例えば地区でこういうことをやりましょうと決めますよね。この次は、例えばイノシシのあればしましょうとか地区で決めます。地区で1回決めたことば後で、うんにゃ、次の集会のときにこれはあいばい、その次の集会のときも、これはあいばいと言わるっぎ、その地区は前に進まんですよ。そういうことを鑑みながら、私はちょっと一般質問をきちんとしていきたいなと思っているんで、皆さんどうぞよろしく願いいたします。

ここに書いてあるとおり、一般質問を開始させていただきます。

先日、若木町で敬老会がありました。これは本当に打ち合わせも何もしていないんですが、今ちょうどお世話いただいた緒方婦人会長さん、ちょっと後ろに見えられているんですけども、その挨拶のところを写真撮りました。これはもう打ち合わせなしでやっているんですけども、盛大に行われて、その中で来賓で稲富県議さんが見えられていました。挨拶はやっぱり上手ですね。いろんな挨拶、その中でシルバー川柳を読まれて、なるほどなというのを言われていたんですけども、例えば「化粧する昔話も化粧する」とか、あと「昼寝して「夜眠れぬ」と医者に言い」、あと「年をとり美人薄命うそと知る」とか、いろいろおっしゃっていました。

その中で、こういう話をちょっと私はしたんですけど、北九州市にバッティングセンターがあるんですね。そのバッティングセンターはすごいんですね。ダルビッシュでさえ150キロなんですけど、その北九州のバッティングセンターは200キロのボールが来るらしいです。日本でそこだけらしいですね。その200キロのボールを打ちに七十数歳のお年寄りが来てい

るらしいです。それを一日200球打ってホームランも打たれる。やっぱりこういう元気なお年寄りがいっぱいいらっしゃるということは本当に素晴らしいことだと思っております。

次に、これは先日行われたこども議会ですね。こども議会の中で子どもたちが、これは北中だったですかね、少子・高齢化対策というのを質問されていて、その中でどうしようかという、市長答弁でお婿さんを取りなさいとか言われて、みんななるほどなというふうに、いろいろいいなということでは言われていました。何でこんな話題を出すかという、周辺部はこういう高齢者世帯、独居世帯とか物すごく多いんですね。そういう世帯がふえているので、ぜひ災害対策も物すごく大切なことだと思っております。

質問1番は災害対策ですけれども、ことし7月13日、物すごい豪雨が集中的に降りました。集中豪雨は何というんですか、特に若木町は一番雨量が多かったらしいですね。これは豪雨のときの撮った写真です。これは実はこちらなんですね。うちの裏がもう波のように——うちの裏は田んぼですよ。通常田んぼなんですから、わかりますかね。もう波のようになっているんですよ。これがもう家に押し寄せてくる。この横の家に押し寄せている。こういう状況だったんですね。（発言する者あり）そういうのもありますけど、実際にすごかったです。あそこの2カ所から物すごい水が来て、（発言する者あり）加工はしておりません。いろいろ……。議長、静かに……。こういう状態だったんですね。

金曜日のお昼1時ごろというのが、団員さんもなかなか集まらずに、そして若木町全体だったんで——ずっと動かします。全体だったんで、土のうが足りない、足りないということで、これはオーバーフローする前だからここにいたんで、その後、ここつかりました。ここはもうつかったところですね。こういうふうな感じで、ここはもともとは田んぼです。こういうふうに土のうが足りない、足りないという中、役所をお願いしまして、本当に市の機転で団員が少ない中、土のうを全部持ってきてもらって、本当に市役所の対応には感謝しております。ここで再度御礼申し上げたいと思います。あれで水が来なかったというところは多数ありました。本当にありがとうございます。

これはもう川ですけれども、田んぼですね。これも一緒です。これもあと1メートルぐらいで完全に決壊して大変だったとか、こういうふうな状況ですね。これはそのときの災害で崩れたところです。道を完全にふさいでいます。これもそうですね。これは消防団で警戒しながら行って、これはもう切ってありますけれども、これも市の対応は素早かったですね。豪雨が降って、3時ぐらいには、ここぱっと——ここかな、さっきの画面かな。これだったのが、もう4時過ぎにはこういうふうに対応していただいていると、すごい行動が早かったです。（発言する者あり）これはいいですよ。これは民家に裏山が崩れてきたときですね。そのときの……。この写真は分団長さんですかね。これはもう通行どめが出たり、こういう土のう——さっき言いました。本当におかげさまで水を水際で防ぐことができました。

これはその後、想定訓練というやつで消防団でやっている。末藤団長さんを初めいろんな

災害があったとき、どう動こうかというのを訓練させていただいています。こういうふうにしてみんな頑張って地域を守っております。

そういう中で、さっき言いました崖崩れとかが物すごく多い中、我々、よく言われるのが、崖崩れしたときとかなんとかのときに、1軒だけとかなんとかだと、なかなか公共性が薄いと、5軒あれば、そういうふうにして公共性が出てくるから、通常5軒要綱とよく言っているんですけども、以前はそういうものがなければなかなかやっていただけないというのがあったんですね。やっぱり周辺部はだんだん空き地とか空き家が多くなっていく中で、その5軒固まってあるところが反対に珍しいようになっていっちゃうんですね。もう隣の家も解いた、うち2軒しかなかばいと。裏山の崩れてくるぎ、どがんるとて本当に心配なんですね。これは以前そういうことを言われておりました。今回もそういうふうな災害があって、皆さん不安の中で暮らせております。

そういうふうに5軒要綱とよく言われておりましたけれども、先ほど、繰り返しになりますけれども、人口減が進む中、以前の5軒要綱は今現在どのようになっているのか。どのように見直されているか。こういう災害にどうやって対応されているのかをまずもって1つ目の質問にしたいと思います。よろしくお願いします。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

これは制度が2種類あって、議員御案内のとおり、急傾斜地の崩壊防止事業はおっしゃるとおり、5戸以上なんですよ。ですが、5戸未満のところは農林水産省の管轄の農林地崩壊防止事業があって、これは2戸以上になっているんですね。ですので、この組み合わせなのかなということは思っています。ただ、そうはおっしゃっても、メニューがやや違いますので、そういう意味でやはり早くきちんと行うという意味では急傾斜地のほうが上は上なんですね、そこはちょっと県の補助事業でもあるんで、よくもう一回話し合ってみたいと思います。いずれにしても、これは崩壊を起こした家屋、あるいはそこにお住まいの方々を迅速に、かつ的確にちゃんとケアをするというのが大事だと思っておりますので、これはよく相談をしたい。

これはこの前、市長会でも同じような話が出ていましたので、市長会でもこの話はまた取り上げていきたいと、このように思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

21番牟田議員

**○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕**

そうやって、例えばテレビの前でそうやって言っただけだと、周辺部でもう家が少なくなると、裏が山つきというんですかね、山つきのところは物すごく安心というか、何かあ

ったときにこうやって市が動いていただけるというのが伝わるわけですね。うちは1軒しかなかとけ、そこに1軒あって2軒しかなかとけ、何か来るぞ、もちろん人命もそうですけど、全部手出しようかと、やっぱり心配されるんですね。それともう1つうれしい言葉は迅速に的確に動きたいという言葉がありました。こういうのをさっき壇上で言いましたけれども、すぐ土のう対応をしてくれる。すぐ道路をしたところはしてくれる。もう何時間後にはすぐやってくれました。土のうなんて、ダンプで業者さんを連れてきていただきました。本当にすばらしい対応だったと思います。

そういうことをやっていただく中で、そういうふうな発言をしていただけると、本当にこれからの周辺部で暮らしていく、山つきで暮らしていく中で一つの安心になっていると思います。ぜひ、こういう制度を続けて、いろいろ組み合わせてやっていただきたいですし、もう1つは、災害があってからじゃなくて、市長、よろしいでしょうか。

〔市長「はい」〕

災害があってからじゃなくて、災害前に防止する防止対策というのものもあるんですね。急傾斜防止対策、それも5軒要綱というのにひっかかるんですね。災害が来てからじゃなくて、災害が来る前に急傾斜をきちんとやる。そのところをきちんとやるのも5軒要綱というのがあるんですけども、それもさらにさっき言われたように、考えてやっていただきたいと思います。これはもう要望事項でお願いしたいと思います。ぜひ、先ほどの言葉は地域の山つきの人口が少ないところには力になったと思います。ぜひ、よろしくお願ひしたいと思ひます。

では、災害の2つ目なんですけれども、これも最近よくうちの地域、武内町、いろんなところから聞くんですけれども、これも山つき住まれている。家がある。裏が崖というか、なっていて、ここに人の土地ですね。大きい木が立っている。もう風が吹いたら、倒れるぎんた家のつぶるっばい、その先の家までつぶるっばいというぐらい、例えば私が知っているところで、直径40センチとか50センチの木が二、三本折れて、下がえぐれて、この前は台風がそれたからよかったんですけれども、来てたら、多分倒れたんじゃないかというところがあるんです。聞いたところ、そういうところが多分、武雄市内各所にあるらしいです。

でも、個人の敷地、個人の山だから、基本は個人の地主さんが何とかしなきゃいけない。地主がやらなきゃいけないというのは、これは当然のことです。しかし、例えば、その地主も独居老人、子どもさんが出て行って、もう孫も向こうに行って、いない。そして、旦那さんも亡くなって独居世帯だと年金で暮らしていて、大木切り倒すのに何十万円もかかるぞ、私は出しえんと。なかなか調整がつかんわけですね。そういう中でいつ倒れてくるかわからない。

これはさっき言いました迅速に対応していただいたんですけれども、下が道路、こういう道路だったら、市の道路、県道だったらすぐ対応できるんですけれども、個人の敷地、個人

の山つきだと、なかなかそれがうまくいかない。ぜひ、こういうところの間を市が取り持って、もし事業が何かあれば取り入れていただきたい。これは先ほど言いました若木町だけじゃなくて、いろんなところも多分そのまま宿題で残っているところだと思います。ぜひ、こういうのをやっていただきたいんですけども、前向きな答弁をお願いしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

これは、この前の佐賀県の市長会でも、同じ話がやっぱり出てきたんですね。小城市であったりとかいろんなところから、異口同音は独居世帯でこれは困ったという話があって、メニューがないんですよ。ですので、それはやっぱりちょっと考える必要があるだろうと思っています。だから、どこもかしこもというのは財政上無理だし、多分市民合意はとれませんが、どうしても厳しいところについては、そこはもう公費の投入はぜひしていきたいと思っています。

その上で、ぜひお願いがあるのは、やっぱりこういう平常時のときに、ここは危なかぞということ、これは行政が把握するのはちょっと無理なんですね。ですので、区長会であられたりとか、きょう、若木の婦人会長もお見えですけども、婦人会であられたりとか消防団の皆さんたちが、やっぱりそこは一致団結して、ここは早く対応する必要があるだろうということについて、そこはぜひ若木町が先頭になって、いろんなマップをつくっていただいて、そこで事前に行政側と協議をするということは必要だろうと思っています。

その上で、じゃ、行政だけで全部できるのか、それは無理なんでね、そこは地区の皆さんたちのお力をかりることになろうかと思しますので、いずれにしても誰がどうやるということも大事なんですけれども、どのようにちゃんとするかということが一番大事だと思うので、その観点から行政の手を差し伸べてまいりたいと、このように思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

21番牟田議員

**○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕**

やっぱりこういうふうには行政が前向きにやってくると、地域に住んでいる方は安心するんですね。これも一つの小さいけど大きな過疎対策だと思います。ぜひ、そういうふうにして進めていていただきたいと思います。災害に関しては以上であります。これからも大きな災害はあるかもしれませんが、このように迅速に行動、的確な対処をお願いしたいと思います。

それでは、続いて2番目。やっぱりスピードが早いですね。次、2番目。

広報、IT、今後の活用について。これはすみません、さっきの末藤団長のやつです。これは、私が議長をしているときにずっとホワイトボードを写真に撮っていたんですね。いろ

んな視察が来ているというのを、もうずっとですよ。ちょっとぼんぼんと行きますけど、ずっとこう——すみませんね、ちょっと携帯で撮っているやつは見にくいんですけど、こういうふうにはずらっとあります。これもこれも、これはきれいですね。スマホに変えてからこういうふうになりました。これもですね。こういうふうにはずらっとあります。今現在なんて、もうここ半分に切って2段ですよ。それぐらい武雄にこうやって来られています。

それは何でかという、我々はよそからのすごい経済効果があったと思います。私が気づいたときに撮っているだけですから、物すごくいっぱい来られているんですね。それは何でかという、よその自治体よりも武雄が一步先、二歩先を行っているから、先進地視察として武雄に来られるわけですね。よその議会の方、よくお相手していたんですけども、来て、武雄はこがんこがんですよと、例えばIT行政とかフェイスブックにしたとかなんとか、すごいですねと言っていたさなか、もう既にホームページをフェイスブックに変えていこうという自治体も出てきているわけですね。武雄が先進地で。

だから、今一步前へ進んでいた武雄は少しずつ追いかけて来られているんですね。武雄も、やっぱりさらに一步前に行かなきゃいけない。後ろ向きな質問じゃなくて、前に行く質問ですね。前に行かなきゃいけない。やっぱり、それが先進地であり、こうやっていっぱい来るというのは、先進地視察の本当に最たるもので、多分私は日本一の視察受け入れ市だと思っております。これでもよく事務局に聞くと、まだ断っていると。5人以下は受け付けないと、宿泊しないと受け付けない、それを全部受け付けますといたら、ここはもう書き切れんですね。床まで書かんざいかんごとなってしまうんですね。そのくらい、やっぱり来ている。

こういう中で、先月、市長御一緒させていただきましたけれども、アメリカのほうで、グーグルですね。グーグル本社です。グーグル自転車です。これは本当は出さんでよかったばってん、こういうのは余り広過ぎて自転車で動かなきゃいけないという——ちょっと余談ですけど、載せました。この方は、ちょうどグーグルのお偉いさんで、すごい偉い方らしいです。ちょっと名刺英語で、私もなかなかわからなかったんですけども、こういう方と、隣に座っている方は、日本のグーグルのトップの方です。そういう中で、市長はいろんな打ち合わせ、そしてされていました。

次に、これはアップルですね。アップルもこうやって行って、いろんな打ち合わせで、これはフェイスブックです。ちょっとすみません、私はこういう写真しか撮っていなかったんで、これはエバーノートですね。これは会長さん、こちらがCEOさんで、日本人なんですけれども、やっぱりこうやって向こうで活躍されているトップの方です。武雄市のはっぴを、物すごく——ハッピーニューイヤーじゃなかったですね。こういうふうにして、これはフェイスブックで講演されていたときの、フェイスブック本社です、これ。この方とかはフェイスブック本社の方々に、写真撮られていますけど、それまで打ち合わせして、帰るときにこうやって撮ったんですね。こうやっていろんなところに行って、向こうのトップ、IT、シ

リコンバレーのトップの方々と交渉され——交渉というか、いろんな打ち合わせされました。これから先、武雄市はこういうIT広報に関して、市長はどのような戦略を持っていきたいのかというのを伺いたしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私たちには誇るべきIT特別委員会というのがございます。あとは山崎最高情報アドバイザーもいらっしゃいますので、そこで出た意見、例えば黒岩幸生議員がたびたび御質問されている3D検索であるとか、あるいは牟田議員さんが、検索をグーグルマップをもっと使うべきじゃないかと言ったこととか、うちの議会は非常に進んでいますので、そういうアドバイスを承りながら、具体的に案をつくるのは私の仕事だと、議決をいただくのが議会の仕事だというふうに思っています。その上で、今私が考えているのは、グーグルでもフェイスブックでも武雄のことを知らない人はいませんでした。すべてグーグルもアップルもフェイスブックも、あとエバーノートの幹部は武雄市のことは知っています。我々が思っている以上に知っているというのは衝撃を受けました。なぜ、それを知っているかという、やっぱりこれが世の中の——向こうの言葉でいうとデファクトスタンダードになるだろうと。要するにこれがこれからの日本どころか、世界の基準になっていくという期待を込めて応援をするということでありました。

もとより牟田議員さんにおかれては流暢な英語で——ジョークでしたね。ジョークで私を助けていただきましたけれども、それで、今後の展開についてはちょっと私、謝らなきゃいけないのは、やっぱり私、自分の個人情報を出して大分御迷惑をかけましたのでね、これは本当に申しわけないと思っております。私の不注意で関係者の方々にちょっと御迷惑をかけたというのは、これは本当にまた重ねておわびしなきゃいけないんですけれども、その一方で、私はやっぱりクラウドというのは便利なんです。便利ですので、私は情報公開請求をしなくて済むような時代にしたい。今はわざわざ市民の方々、市民以外の方々が市に出向いて情報公開請求をしなきゃいけないわけですよ。そうすると、我々がまた一々精査をして、これは出すぞ出さないぞとかやっているわけですね。

これは以前、山崎最高情報アドバイザーが、これこそ不便なものはないということですので、どういう手だてを、エバーノートと組むか、グーグルと組むか、ちょっとこれは考えさせてほしいんですけれども、そういうお力をかりて、ちゃんと個人情報に配慮して、出せる情報はもう情報公開請求はなくてもそこで拾えるというふうにもうしようと思っております。行政は情報を独占しています。膨大な情報があります。ですので、これは行政のためだけじゃなくて、広く市民、県民、国民のものですもんね。ですので、こういう情報は洗いざらい出していこうと思っております。

ただ、繰り返しになりますけれども、私も失敗しました。個人情報というのは、これはきちんとやっぱり配慮します。出しちゃいけないものは出しませんが、それは全部出す。そのときに大事なのは検索なんです。ですので、そこは黒岩幸生議員が常々おっしゃっている3D検索ですよ。タグづけの検索で、誰もがすぐ言葉を入れなくても、ある程度イメージで入って行って、必要な書類とか、あるいは画像とかが取り出せるというふうにしたいと思っています。

長くなりましたけれども、これを思い立ったのは、今、我々は庁舎の検討をやっているじゃないですか。昭和41年に建てられて、たしか3年間ぐらい議論しているんですよ。古賀滋前副市長にも聞きましたけれど、だけど1個も資料が残っていないんですよ。その前のときの写真であるとか、その当時どういう議論をしたかというのは、1個も残っていないんですね。ですので、これはいけない。だから、我々は情報というのは、ちゃんと残すということも必要だし、それを取り出して見てもらうというのもすごい大事なんですよ。そういう我々は反省を込めて、ありとあらゆる情報で——しっかり出せる情報ですよ。出すべき情報というのはきちんと出していくということにしたいと思っております。そうしないと、先ほどの江原議員みたいに何か暴くような質問で、オフレコなのにこうやって出してね、こんなことになるから教育委員会もいけないんですよ。ですので、全部出していく、そういう姿勢が求められていると思います。

でも、余り僕みたいに出し過ぎるとよくないと、このように思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

21番牟田議員

**○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕**

今、今後のこととか、大枠で言っていただきました。ちょっとこの感想を言いますけれども、すごかったですね。さっき言いましたグーグルの日本のトップの方も武雄が来るということで、日本からわざわざ来られているんですね。グーグルの日本のトップというのは六本木で3階ぶち抜きですよ。びっくりすることに、御飯はただ。

〔市長「ただやった」〕

ただなんですよ。余り関係ないですけどね。そういう人がわざわざ武雄が来るということで駆けつけられる。こうやって写真を撮られている女性の方も、通常すごいポジションにいらっしゃるんですね。グーグルのときも、さっき言いましたすごいトップの方、グーグルのトップの方が武雄が来るということで、来てくれた。武雄はやっぱり物すごく情報発信をしているので、さらに一歩前に行って——さらに一歩前に行くというのが、やっぱり市民生活の向上につながるわけですね。市長は細かないろんな活用方法をグーグルにするかエバーノートにするかという部分でためらわれていますけれども、そういうのを活用して、もっと細かなところまで出てくると思います。そういうのが市民生活の向上、そして外から来た方々

の、何というんですか、武雄に来てよかったねとか、そういうのを武雄が一步、二歩前に行けば、最終的には市民のプラスになるわけですよ。ぜひそういうのを一端でもいいから言っていたいただければうれしいんですけど、よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今、実際にちょっと関係者と、特に山崎さんとも話を進めていますけれども、やっぱり行政情報は地図情報と非常に近いんですね。例えば、年玉橋が壊れたといっても、多分一般人はわからないんですね。わかるのは多分、吉川議員さんと山口良広議員さんだと思うんですけども、その年玉橋が壊れたといったときに、直ちにそこを押したときに地図で出てくる、あるいはその画像が出てくる。それが築何年かというのが今すぐ出せるんですよ。でするので、あるいは災害に遭ったときに、これは非常に好評を承りましたけれども、我々職員が頑張っていて、橋が不幸にしてつかったときに、交通障害、何というんですかね、迂回してくださいと、ここは通れませんというのを、ピンでグーグルマップで出したんですよ。これはやっぱり県の職員の方々も衝撃だったみたいで、そういうふうに今、スマートホンであるとか、行く行くは今度、カーナビでもそれが見られるような時代になっていきますので、地図というのをもっと前面に出していきたいと思うんですね。

そうすることによって、牟田議員さんも私も、例えば一番最初に出たときはグーグルとか、ヤフーだったりするじゃないですか。そうじゃなくて、武雄市民であれば、朝起きたときにね、武雄市のマップが出てきて、例えば佐賀新聞、西日本新聞の記者さんお見えになっていますけど、そこで記事が出てきたときは、そこにも記事が——例えば若木の北中に行くところで交通事故が起きた、あるいはイノシシが出てきたなんていうのは、そこに地図で記事が出てくるといったこととか。あるいは、もっと言えば、ここで例えばおめでたがありましたとかというの、これは個人情報に関する話なんでね、ちょっと厳しいのかもしれませんが、そういういい情報というの御本人の了解が得られればそこに載っていくということになれば、よりやっぱり武雄市に皆さん愛着を持つと思うんですよ。

でするので、そういうふうに単に行政だけじゃなくて、マップ、これはグーグルになるかゼンリンになるか、ここはこれから詰めますけれども、地図を主体としてもっと出ればいいのになというふうに今思っていますので、それも難しくなく、アップルみたいに直観的に入っていけるようなところまでして、これを全国の自治体に売っていこうと思うんですよ。要するに、武雄と例えばグーグルと組む、あるいは武雄とエバーノートと組む。これの製品をつくりまします。製品をつくった上で、我々はやっぱりそこから収入を得られることによって、それを福祉とか子育てに回せるじゃないですか、そういうふうに我々はやっていく必要があるだろうと。

これは多分全国の自治体が、今我々に期待しているのはそこなんです。要は自分たちで開発するとべらぼうに高くなると、あるいは使い勝手が悪いものが出てくると。だけど今、武雄市がやっているというのは、F&B良品もそうですけど、徐々にやっぱり広がっているんですね。なぜかという、使いやすいから、しかも注目を集めるから。ですので、山崎情報最高アドバイザーの力を使って、それがパッケージとして売っていけるように我々はしていきたい。これを税収の足しにしたいというふうに思っております。

だから、ここで大事なのは議員さんたちなんです。実際これを使って、いや、ここは使い勝手の悪かぞとか、あるいはここはこうしたほうが良いというのをぜひまた前向きに、後ろ向きじゃなくて、おっしゃっていただければありがたいと、このように思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

21番牟田議員

**○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕**

僕も後ろは嫌ですもん。後ろから見られると嫌ですから、前から見られたほうが良いと思います。事務局、大変ですね。また視察ふえますよ。お疲れさまです、局長。でも、そうやって、やっぱり一歩、二歩も走っていると市民もよくなる。先ほど市長が一端を言われましてけれども、そういうのを製品化して売っていくというのも、これも多分自治体初の試みだと思いますので、ぜひそういうところでやっていただきたいと思います。さらに、そういうマップとか今言われたんで、ぜひ観光の面とかも、もちろんそれにプラスされるでしょうから、永野の風穴とか、そういうのもして、川古の大楠のほうもピンでして、そういうことも考えられないのだろうか、ちょっとお伺いしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

いろんなことが考えられていて、これは私個人の考え方なんですけど、何でもかんでも載せるのはやめよう。ですので、例えばこれは防災版のマップですと、これはニュース版のマップですと。先ほど牟田議員さんがおっしゃったように、これは観光用のというふうにして、稼げる手段をいっぱいつくろうと思っています。その上で、これで大事なものは、これを仕事にしよう。要は東京のどこかに委託するとか中国、これは今インドがすごいんですね。インドのエンジニアというのは、物すごい日本のアプリとかというのはインドのエンジニアがつくる時代なんです。ですが、我々はこのアプリ、要するにどう説明していいのかわからないんですけど——ちょっと画面出せませんので、ここで今起動するソフトのことをアプリというんですね。このアプリを開発するということであると、人手が物すごく要るんですよ。これを企業とともに雇用に結びつけたいということを思っていますので、武雄を第二のシリコンバレーにしたいと。

これね、笑いが起きましたけど、アメリカのシリコンバレーも二十数年前はあそこ砂漠なんですよね。ですが、牟田議員さん行かれて、僕らびっくりしましたけれども、シリコンバレーは狭いところじゃないんですよ。武雄と伊万里と有田と嬉野を足したぐらいの、もう少し大きいですね。そこに立錫の余地もなく研究所とか自宅とか入って、世界中で一番地価が高いところは今、シリコンバレーなんですよ。あそこは住みにくかですよ。あそこは若木のほうがましですよ。ですので、武雄ができないという理由にはならない。だから今、起業家の杉山さんとか屋良さんたちが移り住んできていますので、起業家を集めてこの開発をしていただいて、かつそこに雇用を結びつけると。データを入れたりとか入力するのは結構力技になりますので、だから、そういうふうに応用で起業をするまち、ソフトシリコンバレーですよ。というのをぜひつくっていきたい。

その核になるのが、僕は今度は図書館だと思っているんですよ。あの図書館で人が物すごく引きつけられます。引きつけられるんで、そこを単に本を読む場だけじゃなくて、本を読んで、あと人と出会って、そこで起業をしていって仕事をつくと、そういうプロセスまで議会の力をかりながら描いていきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

シリコンバレーって、本当、立錫の余地もないぐらいの企業、もちろん家もありましたけれども、そういうふうになると……

〔市長「若木バレー」〕

太陽光村、もちろんメガソーラーもいろんな面で重なり合って、相乗効果を出して、この武雄をますますバントヒットからシングルヒット、二塁打、そしてホームラン、いつのまにかサイクル安打になっていると、そういうふうにして、少しずつでもいいから実現して行って、武雄のプラスになっていくように、ぜひお願いしたいと思います。

では、次の質問に――さっきまで早かったですねと言いながら、ちょっと今度の次の質問に行きます。

これ、ちょっと映りにくかですね。わかりにくかばってん、パーキング。体の不自由な方のパーキング、これはとまっていなくてですけども、私はいろんなところで見んですけども、どがん見ても健常者の人のとめよんさつとですね。佐賀県というか、国土交通省の調査がありました。国土交通省の調査で佐賀県の調査の結果も出ています。体の不自由な方の6割はとめられないというアンケートが出ています。それは何でかという、健常者の方がとめられているから。こういう場所、武雄もいっぱいありますね。やっぱり私も行って、どがん見てもこれは健常者やろうというごたる人はいっぱいおんさつです。

こういうふうにありますね。パーキングパーミット、後で説明しますけれども、やっぱり

こういうふうなところをとっていないと、さっき言いました障がいを持っている方がとめられないで遠くにとめて、何のためのこれなのかということで、もうちょっと私の同級生とか知人も車椅子の方いらっしゃいますけれども、やっぱり物すごく不便だと。せっかくあるのにとめられない。例えばきちんとそういうふうな不自由な方がとめられたら何の文句もない。でも、健常者の方がとめられていると。

そういうので、佐賀県はこういうのを物すごく進んでいるらしいんですね。パーキングパーミット制度というのをつくったのは佐賀県だそうです。こういうのをフロントに下げている方が——これですね。とめられるという形でできています。こうやってですね。こういうのを持たれた方がとめられるというのは、当然そのスペースはあるんですけど、最近はどういう——すみません、行き過ぎました。ないと。ほとんど健常者の方、6割以上の方がとめられない。6割の人がとめられないということはどういうことかということ、すいているときはやっぱりとめられるですね。やっぱり自分が行きたいときにとめられないということです。

どういうふうな措置をしてほしいかというふうなアンケートもあったらしいです。そのアンケートの一番で、ぜひやってほしいというのが法的措置をつくってくれと。ここにこれをつけていない車がとまっていたら、法的措置をしていくということをアンケートで言われています。さらにアメリカはこれをつけていないところで、こういうスペースにとめたら全部レッカー移動だそうです。レッカー移動で、レッカー代が物すごく高いらしいです。アメリカはその点、進んでいるんですね。日本はこれをつけていない方が堂々ととめられている。やっぱり私も注意せんぎいかなとか、何とかなとなかなか言えないのが多分現状だと思います。こういうふうなとめれる方、これは妊婦さんもこういうのが発行されるらしいです。

さっき言いました繰り返しになりますけれども、とめられない方のほとんどは法的規制をつくってほしいというアンケート。その次は、警備員さんを回して警告文を張ってほしい、そういうふうなアンケート結果がたまたまですけれども、国土交通省の佐賀県の調査で出ていました。多分皆さん方もほとんど見たことあるんじゃないですかね。いろんなスーパーとかなんとかにとめていて、ここのスペースなのに、どがん見ても健常者の方がとめられているというのを、ぜひこういうのでさっき言いました一番の願いは法的措置をつくってほしいということ。アメリカのレッカーまではあれかもしれんですけど、そういうのがないか。その次は、例えば警告書を張られないかということがありました。

武雄ではイオンかな——イオンじゃなかった。何やったですか。T S U T A Y Aの……（「マックスバリュ」と呼ぶ者あり）マックスバリュは、とめたら声がします。「こちらは不自由な方の駐車場です。健常者の方はとめないでください」という放送が流れます。あれはあそこだけなんですね。だから、もしよければこういうところがあるときに、その会社がそれをつけようとするときの費用の一部を補助してやるとか、あと、その中で警告文とかなんとかを差すのを許可してやるとか、アメリカみたいにレッカー移動とか、超法規的措置と

というのは、例えば条例でつくっても難しいのかもしれませんが。

ですから、そういうふうな小さなことから、とめて——私は余りというか、とめないんですけれども、とめてドアをあけたら、こちらは健常者の方はとめないでください、これをつけた方にしてくださいという放送が流れると、何人かは動かします。動かさない人もいます。でも、やっぱりこういうふうな行政が何らかをしないと、本当にこういうところにとめたい方がとめられなくなるんで、何らかの措置ができないものかというのをお伺いしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに図書館もそうだし、市役所もそうなんですけど、パーミットのカードをつけていない方がとめられているというのは、間々見ますもんね。やっぱり日本人のモラルが物すごく低下しているなということを感じていますので、こんな人に幾ら言ってもだめですよ。ですので、我々とすれば、先ほど議員がおっしゃっていただいたように、そこに来たときは、文言わかりませんが、身体御不自由な方の専用ですとかいうアナウンスを流すとか、あるいはちょっと考えたのは、私は今プリウスに乗っているんですけども、プリウスに乗っている場合は、自分の鍵が近づいてきたら、ぱかっとあくんですよ。トヨタの一定の車はそうなんですけど、例えばこれがないととめられないようにするというのも、もう可能かなと思っていますので、これは実際出すのは県ですので、ちょっと県とよく調整しなきゃいけないんですけど、ここに磁気システムを設けて、これがないととめられないとかというのも、ちょっと時間がかかるかもしれませんが、我々の担当のほうから提案をしていきたいと思っています。

私はね、余り人のモラルに期待しないことにしました。これは注意する人というのは言わなくてもちゃんとやるんですよ。ですので、そうじゃなくて、とめたらもうこれだけペナルティーがあると、警告書もやります。警告とかいう、でっかいのをつくります。しますので、要はとめるのがもう恥ずかしいというふうにするようにしたい。

ちょっとこれは、例えば市役所でも図書館でもそうかもしれませんが、可能な限りアナウンスもしようと思っています。そこにいる人たちが見たときに、ないといった場合は、車の番号等言って、早くのかせるように。非常に妊婦さんとか困っているのを僕は何人も見ているんですよ。ですので、やっぱり正直者がはばかれるというのはだめです。ですので、それはやっぱり我々がそういう意味じゃ排除をしていくというのはすごく大事だと思いますので、それはよく考えて、県とよく調整をしていきたい、このように思います。警告はすぐやります。警告。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

**○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕**

やっぱりそうやってやらないと、本当に必要な方々がユニバーサルデザインでトイレとかは健常者も使えるんですけども、こういうパーキングとかはやっぱり本当に、私は足を手術したときに2カ月、車椅子だったんですけども、ほとんどとめられなかったですね。先ほど市長もおっしゃった妊婦さんとかもやっぱりこういうのを発行して、近くにしていくと。それもやっぱり武雄市の優しいまちづくりの一つだと思っております。ぜひ、そういうふうに放送で誰かの声ば——議員さんの誰かの声でもよかけん、ここは健常者ですというごたつとば誰かですね。江原議員さん、しつこく何回も言うごとしたいですね。いろいろあると思いますよ。とにかく健常者の方はとめられないというような形でしていくように、優しいまちづくりでやっていただきたいと思えます。

では、続きまして、みんなのバス、これはもう前回のときもお願いしました。前回お願いした後、いろんな——きょうは山田さんいらっしゃるんですけども、いろんな方式で地域の役に立てるような形に持っていきますということを話し合いでやっていますし、今後も何とかこれを継続してやっていただきたい。

途中で、前回、効果があるようにということではいろんな方式をとられていますけれども、その後の傾向と対策をどのようになっているのかをお伺いしたいと思います。よろしくお願ひします。

**○議長（杉原豊喜君）**

宮下つながる部長

**○宮下つながる部長〔登壇〕**

若木町、それから武内町におきまして、市中心部への移動を促進するという目的のもとに、7月から8月にかけて、みんなのバスから循環バスへ乗り継ぐ際については、利用者の方々の運賃、乗り継ぎを無償にするという実験を行ったところであります。

その結果につきましては、乗り継ぎの利用者がもともと若木町で7人程度いらっしゃったのが17人に10名の増と。それから、それから武内町ではゼロであったものが8人ということでは8名の増ということで、キャンペーンの結果、みんなのバスから循環バスへの乗り継ぎ利用ということで、認知度がかなり高まったというふうに認識しております。

今後につきましてはですけども、みんなのバスといいますのは、緊急雇用対策事業という事業を用いまして、現在のところ無償運送を行っておりますけれども、この補助が24年度、今年度で終了するというところでございます。そういうことで、補助金終了後も運行を継続してやると、こういうことで考えておりますが、一定利用者の皆さんの御協力をいただき、有償化ということも検討してまいりたいということで、これからも御協力をお願いしたいというふうに思っています。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

いろんなキャンペーンをやられて、若木は倍以上の利用率になった、そして武内がゼロだったのが7人になったと——8人だったですか、すみません。やっぱりそういうふうに地域の足というのは物すごく大切なんですね。周辺部では、例えば先ほど言いました独居老人、おじいちゃん、おばあちゃんがいらっしゃる。毎日、軽トラを運転して送ってくれたおじいちゃんが亡くなったり、何かあったときに、おばあちゃんだけだとどうにもできない。みんなのバスは近くを通ってくれますし、バス停のところまで近づいていってでも、乗るばいと言うたら、やっぱりフレキシブルに対応してくれています。そういうふうな地域の足というのも、ぜひこれからも確保していただいて、有償という言葉は出ましたけれども、できれば無償でやっていただきたいんで、これはもう、その後、地域と話し合って、コンセンサスを取りながらやっていっていただきたいと思います。

ぜひ、今後もこのバス、永続的に運用していただきたいと思います。どうぞよろしく願いまして、次の質問に移ります。ちょっと早かったですか、失礼します。

次は、企業、大会誘致。企業誘致はおかげさまで若木の工業団地、残り2カ所全部埋まりまして、ソールドアウト状態になっております。今、1つ、エピクルーさんがまだ工場を建てていないんですけれども、今後また建てていただくことを期待して、カイロン跡地、そして平和電機の横、タケックスさん、そういう形で来ていただくところが決定しました。いろんな形で企業誘致のほうも頑張っていたいております。

もう1つ、企業誘致はそのようにして頑張っている。では、ほかの議員さんも宮裾の工業団地、物すごく期待されると思います。企業誘致もそうなんですけれども、いろんな大会の誘致ですね。大会を誘致、例えば武雄はことし古希野球をやるとかなんとか、大会を誘致しています。ただ、これで私がちょっと前に思ったのが、古希野球は例えば生涯学習課さんが聞いて上に上がってきた。例えば観光課の人が観光協会さんから聞いて、何々をやってきた。みんな市役所の周り、各部、各課、係さんが聞いていたところは動いているんですね。

じゃなくて、企業立地課をもっと増強して、一元的に大会誘致とか、そういうのまでできないもんだらうか。というのは、伊万里で今度は何とか大会のあるばい。あそこの役員さんはよう知ったとけ、何で武雄に引っ張ってこんやったととか、あとは有田でこういう大会がある、それやったら、あそこは知つとるばいて、後で聞くんですね。それはやっぱり情報の共有化ができていなかったと思うんですよ。後の祭りで、あそこは知つとったとけ、あそこの役員さんは仲間で、あれやったら無理して武雄によかったとけねとか、そういうふうな情報の共有化をするための核になる課が大会誘致には必要だと思います。

こういうのもあるんですね。伊万里で大会のあるけんがて知らんぷりするとじゃなくて、伊万里で大会のあったら、泊まり客でも武雄に引っ張ってくる。そういうふうな核になって動く。あと、武雄はフェイスブックがあるんで、フェイスブックで今度、九州でこういう大会を計画されていますけれども、誰か役員さん知りませんかと流しただけでも、例えば職員さんはいっぱい知っていらっしゃるかもしれない。あと、例えば学校誘致にしても、どこどこ専門学校を俺は知っとるけんが、その人を引っ張ってこらるっばいとか、いろんなことができると思います。ただ、それが今のところばらばらでやっているんですね。もうちょっと重要なのは、市長、副市長とか議長が一定されていると思うんですけども、その他の部分は多分事後報告で、市長、こういうのがあるらしいですよ、ぜひ挨拶に来てくださいとか、そういう類いだと思うんですよ。ですから、反対に逃した魚というのもしっぱいいるかもしれないんですね。

ぜひ、そういうふうな核になって、情報の共有化を発信し、動けるところをつくっていく。企業立地課とあるんですけども、ぜひ企業立地課の中にでも、そこが核になってもいいんですけど、やっぱり今の人員じゃ、そういうのも大変でしょうから、そういうふうな核になっていろんなところで引っ張っていってくれる、そういうふうな組織づくりは考えられないもんだらうかというのを質問したいと思います。どうぞよろしくお願いします。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

今、もう2回目ですかね、九州の古希の野球大会はこの鬼瓦権造みたいな顔した前田副市長が持ってきた話なんですね。ですので、人のつながりというのはすごく実は大事で、それは牟田議員さんのおっしゃるとおりなんですね。ですので、例えば議会の視察、全国で今最多だと思うんですけど、もう今度、条件を一泊二日じゃなくて二泊三日にしようと思っているんです。もうたまらないですよ。もう余り来ないでください。本当、もう大変です。ですので、二泊三日に——これを言うとね、また倍増しますので、作戦です。

ですので、そういうふうな、そこは議会事務局長を中心としてうまく割り当てているんですね。ですので、そういう意味でのヘッドクォーター、司令塔が必要だというのは議会の視察を見ている、局長の動きを見ている、よくわかりますので、今回、課の前に、司令塔を、小松政——江原議員さんが嫌いなIターン、Uターンの人なんですけれども、小松政君をその司令塔にあした任命しようと思っています。今、見てびっくりしていますけど、小松君を企画の中に据えて、そこに各課でそういう人脈にたけた人間がいるんですね。例えば監査の事務局長の森とかね、物すごくあれは人脈があるんですよ。韓国系ですけど。ですので……（発言する者あり）いや、これは大事なんですよ、韓国は。仲よくしましょうね。

ですので、そういった人脈であるとか、あとそういう非公式にもいろんなありますので、

司令塔を立てて、そこに情報を共有すると。小松君を中心として情報が共有していくと。大きな大会になると、プロジェクトではもう無理になりますので、そのときはきちんと課をつくって、準備からいろんなことをしていきたいというふうに思っていますので、御意見は十分に踏まえてまいりたいと、このように思っております。小松政をよろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

やっぱり先ほど言いました各課が、末端がばらばらに動くよりも、核を1つつくってやったほうが、後で逃すよりもいいと思いますので、ぜひやってください。小松さん、よろしくお願いします。

では、次の大会誘致とかなんとかの、次の大会、企業誘致の中の一つなんですけれども、これはロンドンオリンピックのときですね。ロンドンオリンピックMTB……

〔市長「えっ、MBXやろう」〕

MBX。MTBで何でしたっけ。すみません。バイシクルモトクロス、ロンドンオリンピックです。武雄が全プロを誘致しようというとの付帯で、この大会も引っ張ってこられると。今度の当初予算だったですかね、この視察予算もついています。これのいいところは、後で言いましょう。こういうふうなこういう感じですね。こういうふうなコースです。ただ、土地に山を盛っているだけです。これもそうです。これもそうです。これはこういうふうなコースですね。大体100メートル、150メートルぐらいあればいいらしいです。ここで飛んでいると、こういう感じですね。これは自転車です。これはこの後とですね。

今、ちょっと競輪で佐々木昭彦さん、この件で何回かお伺いしたんですけれども、ぜひ引っ張ってきてくれと、つくってくれと。つくってくれという中でも、国際基準に合ったコースをつくって——ちょっと日本のよりも広く。というのは、日本で今こういうふうなコースが8カ所あるらしいですけれども、国際認定コースは1カ所もないらしいです。国際認定コースは1カ所もない。ということはどういうことかということ、国際的に出る選手というのは、もう武雄にしか練習に来られないんですね。普通のコースとは違うらしいです。

だから、そういうふうな大会と、もう1つは国内のレースも九州にはありません。九州にはないから、九州の人がわざわざ岡山とか岸和田とか行っているらしいんですね。九州でやると、こういう感じだと思えるんですけれども、九州で国際——国際じゃなくても、こういうのをつくと、いろんな人が来ます。必ず親がワゴン車にバイクとか、自転車を乗せてくるから、必ず宿泊があるらしいです。ですから、1つはぜひ、こうやってつくっていただきたい。

もう1つは、国際認定コースをつくっていただきたい。それは何でかということ、ワールドツアー、日本には国際認定コースがないんですよ。佐々木さんと話していたんですけれど

も、ワールドツアーを誘致できるというんですよ。日本にはないから、日本として動けると。岸和田にも——それともう1つは、日本でつくっているのは岸和田とかなんとかいう場合は、すごい山の中らしいです。ここは多分山の中というか、山ですね。多分秩父、東京の——秩父は埼玉かな。そうそう。だけど、東京から2時間半ぐらいかかるらしいです。ここだったら、例えば仮に競輪場のそばにつくるとしたら、もう高速おりにて10分、15分で行けるんですね。物すごく位置的にもいい。そして、九州にはない。さらに国際認定コースをとれば、ワールドツアーも引っ張ってこれる。例えば競輪場の近くにつくれば、御船が丘小学校の子どもたちもできるんですね。例えばクラブチームができるかもしれない。そういうふうないろんな面が考えられると思います。

さらに、これは佐々木さんがおっしゃる、こういうことをした子どもが大きくなったら競輪選手になってくるかもしれない。いろんな面で、ぜひつくっていただきたいというのは経済効果があるからつくってくれ、そして国際認定コースは日本にないから、日本につくれば、そういうふうな国際大会が開かれる。うまくやればワールドツアーも引っ張ってこれるということでした。

これは、土を盛っているだけですもんね。このスタートのところは高いらしいです。このスタートのところ、ここが500万円ぐらいするらしいです。あとは土盛りだから、そんなにかからないと。そんなかからないといっても3,000万円ぐらいはかかるとは思いますけれども、物すごく効果があるとは思いますが。ぜひ、こういうのもあって、市長、ジュネーブにツアーを引っ張るときに行っていいじゃないですか。とにかくそういうふうな、ぜひつくっていただきたいのと、つくっていただけるなら、九州にない国際認定コースをつくっていただきたい。何度も言うとしつこくなりますからね。ぜひ、つくっていただきたいんですけども、いかがでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

これはオリンピックなんかでも物すごく人気があるんですね。ちょうど私はオリンピックの期間中、牟田議員さんと同じでサンフランシスコにおったときに、ホテルで一番流れたのはこのBMXなんですよ。ですので、日本だと、日本で人気のある、例えば柔道だったり、あるいはバレーだったりしていたんですけど、ねえ、牟田議員さん、僕らが見ていたときにこればかりやったですもんね。ですので、やっぱりこれは、僕らはアメリカのサンフランシスコという一部分だったんですけど、見よんさっ人たちも熱狂的に盛り上がんさっわけですね。しかも、これは私も佐々木昭彦先生から伺いましたけれども、これは世界的潮流になっていくだろうということをおっしゃっています。ここで、どこにしようかなど。もうやることはやります。さっき副市長と話をして決めました。もうやりますよ。

ですが、ちょっと場所をどうしようかなと思っていて、一番いいのは、今競輪選手会と話をしているのは、競輪場の横がいいなと言われます。これは今、調査もかぶせていますけど、ただあそこは市有地じゃないんですね。市有地じゃないんですよ。清香奨学会の持ち物ですので、そことの関係をいかがするかということが、まず1つあります。それと、やるとするならば、できればこれは市有地に近いところでやりたいんですね。だけど、余り人里離れたところでは、ちょっとこれはやっぱり温泉に近いところでやりたいと思っていますので、ざりて言うと、東川登のあの土捨て場……（「いらっしやいらっしやい」と呼ぶ者あり）いらっしやいという野次が聞こえていますけれども、ただ、そこは競輪選手会ともよく調整をしなきゃいけないんですが、そういう市有地でできないかなということ。

あと、例えば今の北方の工業団地の手前の部分ですよ。本体のところは企業誘致で当然行わなきゃいけないんですけれども、例えば手前の部分をもう少し造作をして、そこにふさわしいものにできる。これは地元の皆さんと、特に黒岩幸生議員さんを中心として、地元の皆さんとも話し合いをしなきゃいけないんですけれども、そういう市有地を幾つか、ちょっと候補を立てて、その中でよく地元の皆さんとも話して、競輪選手会の皆さんとも話して決めていくプロセスが必要だろうと思っています。

どうせこれをつくっても、いろんな費用を聞きましたけれども、そんなにお金がかかる話じゃないんですね。土を盛って、ちょっと見せていただければありがたいんですけれども、土を盛っただけなんですよ。ですので、維持費についても例えば岸和田なんかは2,000万円強かかるとは聞きましたけれども、これも聞けばこの維持に当たってはほとんど人件費なんですね。そこは競輪選手会のお力をかりながら、なるべく市民負担にならないようにしていく必要があるだろうと思っています。武雄はもとより自転車、競輪のまちですので、これはぜひ進めていきたいと思っています。もう少し時間をいただければ、それで今度の――夢はね、東京オリンピックですよ。東京オリンピックの例えば予選がここでできるようにしていきたい。リオはちょっと遠いですが、していければいいなと。そこがあわせて合宿所になって、宿泊地を使っただけとか、そういうふうになれば、非常に起爆剤になり得るなと思っていますので、もう少し時間を。

今、くどいようなんですけれども、しつこくなって恐縮ですけれども、今調査をやっていますので、この結果についても議会、市民の皆さんたちにはいち早くお知らせをしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

佐々木選手会会長さんも本当に期待されていると思います。九州予選はもう間違いなくありますね。3.11以降、皆さん御案内のように、東京都とか都会とかなんとかは自転車の歩道

をつくろうかとか、自転車にナンバーをつけようかというぐらい自転車人口がふえていると。自転車規制をしなきゃいけないぐらい自転車ブームだと。何か自転車の売り上げは今のところ倍々ブームできているので、ぜひこういうふうにしてやっていただければと思います。こういう自転車らしいです。カーボンでこうして、これは高そうですね。

では、次の質問、要望というか、誘致の部分なんですけれども、これは何かわかんさっですか。

〔市長「タコ」〕

誰でもタコというのはわかりますね。名前、わかりますか。（「パウル」と呼ぶ者あり）パウルというんですね。ワールドカップでどっちが勝つかってやったタコですね。これはパウルというんですね。

これはドイツの水族館なんです。これを経営しているのは、シー・ライフという会社です。シー・ライフというのはマーリン・エンターテインメントという、ディズニーよりも売り上げが多いエンターテインメント会社です。そういう中で水族館を各地につくられています。いろんなところに、世界で20カ国96カ所、今こういうのをつくっているらしいです。日本にはまだないんですね。もう1つは日本人の変な先入観、日本人ともう1カ国は変な先入観を持っているけど、水族館は必ず海のそばじゃなきゃいけない。これは違う。今、世界は全然違うらしいです。魚もいろんな種類も一緒に入れるというのはないです。そこにすんでいた魚の水に合わせて人工的につくったのをやっているらしいです。ですから、今ずっとシー・ライフはいろんなところを探していらっしやると。日本はことしの6月に現地法人がやってきて——日本、ジャパンですね。この前、ホームページを見ていたら、人員募集をやっているみたいです。年俸360万円からということで出ていました。

日本に進出の足がかりをつくられている。ここは水族館ですけども、これは民間がこのシー・ライフというか、マーリン・エンターテインメントが全部金を出します。つくります。こういうのを、これは誘致ですから夢の話の一端になるかもしれません。こういうのも、ぜひ誘致を。例えば保養村の先に武雄の森林、いっぱいありますよね。ああいうところで、そこをやるから来てくださいとか、そういうことをやって、夢をできるのも、恐らく民間のお金でつくるわけですから、今は公営というのは世界潮流としてほとんどない。日本ぐらいです。日本も何十カ所とある中で、私立というか、私立の水族館というのが多い。

これは夢みたいな話ですけども、実際、ディズニーよりも売り上げが多いところ、それでこういうふう民間でつくってくれる、山の中でも関係ない、ネバダの砂漠でも関係ない、いろんな砂漠の中にある。つくって、そして調査して、ここはいけると思ったら向こうの金で本当につくっているんですよ。こっちは土地を提供するだけ。

こういうのも1つの誘致として考えられないものか。宇宙科学館、水族館、そしてあの辺に行ったら鬼に金棒、そして、さっき言った先進地ですから、いろんな面で注目される。や

っぱりこういうエンターテインメントというのも必要だと思います。これは観光に使えますよ。市長はですね、多分みんな考えるんですよ。ホームランバッターと思うんですね。ホームランばかり期待しちゃうところがあると思うんですよ。

でも、こういうふうな小さいところから——これは大きいですけども、大きいですけども、そういうふうな誘致の可能性が少しでもあれば、動いていただければ、本当にマーリン・エンターテインメント、シー・ライフ、これで検索すればすごい出ます。日本に今ないです。名古屋にレゴワールドみたいなのを来年の4月につくられるそうですが、それも全部向こうの出資ですね。こういうのは九州にもない。ぜひ、九州は、例えば水族館というと沖縄美ら海、うみたまご、長崎のペンギン水族館もありますけれども、こういうのもぜひやっていただきたいと思います。運営から何から全部向こうの資本です。こういうのも誘致の一つとしてやっていただきたいですし、あと、昔出たトーマスですね。なつかしいと思います。まだ、日本から申請は出ていないらしいです。

ぜひ、こういうのも長崎ハウステンボス間を走って、これはもう普通の電気自動車にこの顔して——電気自動車じゃないや——この顔をして行き来させるといいと思います。例えばハウステンボスはH I Sが何百億円かけてやっていただきました。この顔にして走らせるのに何百億円もかからないですね。例えばほんの10分の1、20分の1でこういうのができて、物すごい効果があると思います。ぜひ、昔に言いましたけれども、こういうのも再度考えていって、武雄のエンターテインメント性もぜひ高める。先ほど言った視察の分で、もう武雄エンターテインメントが物すごいピュアになっています。一步、二歩、三歩、ずっと前に進んで、企業誘致、こういうふうな誘致をお願いしたいと思いますけれども、最後の質問になります。市長いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

すばらしいお考えだと思うんですね。これは私みたいな頭のかたい行政の人からなかなかやっぱり出てこないんですよ。ですので、これこそ議員外交だと思うんですね。ですので、きょう付で牟田議員さんをこういうエンターテインメントアミューズメント大使に任命をいたしたいと思っていますので、ぜひジュネーブでも自由に行ってきてもらって——自費で——冗談ですけど、お願いをしたいと思います。

あと、やっぱり外交ってそうなんですよ。もともと、今だんだん出てきましたけど、鈴木宗男さんの本——以前、私はお伝えしましたので、半分ぐらいはわかっていたつもりなんですけれども、例えばプーチンと今、日本というのはすごく近いじゃないですか。あれも、森元総理であるとか、鈴木宗男さんであるとか、亡くなった小渕さんが、そこで議員として、その結びつきをやって、後で外務省なり行政当局がそこを固めていくということなんです

よね。ですので、なかなか海千山千——我々を見てくださいよ、ここは海千山千なんて一人もいませんよ。ですので、そういう意味じゃ、牟田議員の類いまれなる突破力と重圧力と、あといろんな切り刻む能力とか、そういうことを含めて、ぜひそれこそ議員に求められていることだと私は思います。

あとの具現化、具体化については、これは行政が得意ですので、ぜひ行政とタイアップして、どんどん我々を引っ張っていただければいいなと思っております。それこそ、トーマス牟田号。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

きょう4つの質問を行いました。1つ目は、地域に住んでいる方々に安心を与える。やっぱり災害対応できちっとして市がやっていただける。そういうふうなことで本当に安心をもらえて、ITに関して、こういうふうな地域のこと——地域というか、武雄は考えている。そして、みんなのバス、そして障がい者の方々にきちっとやっていく。最後では、こういうふうな夢をやっていく。行政はいつもルーティーンな仕事だけじゃなくて、いろんな面で支えもするし、夢も与える。この2つをあわせ持って頑張っていただきたいと思います。

以上で質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で21番牟田議員の質問を終了させていただきます。